

平成27年度静岡県高校バスケットボール新人大会展望

文責・静岡県バスケットボール協会広報委員長
中島 洋己（浜松市立高校教諭）

静岡県高校バスケットボール新人大会は平成28年1月24日、県立磐田農業高校体育館他で開幕する。男女とも地区大会を勝ち抜いた31校と全国選抜大会に出場した沼津中央男子、常葉学園女子が出場し、30日に準々決勝、31日に準決勝、決勝、3決が沼津市民体育館で行われ、上位3校が2月13日、14日に岐阜市・岐阜メモリアルセンターで開催される東海新人大会への出場権を獲得する。なお、最終日1月31日13時10分から静岡県バスケットボール協会高校部優秀選手25名の表彰式も行われる。

【男子】

新人戦各地区大会覇者3校と年末の全国選抜大会に出場した**沼津中央**が優勝争いの中心となると思われる。その沼津中央は全国選抜大会では近大付属に苦杯を喫したが、セネガル人留学生・2年のセンター・**サンブーアンドレ**（1年）によるゴール下の支配は他のチームを完全に圧倒している。そのサンブーをフォワード・**宮澤亮**（2年）、**藤原佑介**（2年）など周りの選手がうまく使いきれれば誰にも止められない攻撃力を発揮し、今大会でも優勝の大本命である。

西部覇者の**浜松学院**は昨年から下級生中心のチームだったが、主力がそのまま残り今大会14年ぶりの優勝も現実味を帯びてきた。平成25年静岡全中優勝時の浜松学院中メンバーである、司令塔・**伊藤颯太**（2年）、中盤の**横川真那斗**（2年）、不動のセンターで今大会日本人選手最高身長191cmの**田中旭**（2年）を始め、平成26年香川全中3位の原動力となった**石川晴道**（1年）、そして昨秋の全国選抜大会県予選準々決勝で大観衆の中、ダンクショットを決めた**ダシルバヒサシ**（1年）など戦力の厚みは4強の中でもずば抜けている。チームが目指すディフェンスからの速攻が多く決まれば、他チームの追従を許さないであろう。

4強の一角・**藤枝明誠**も危なげない戦いで中部新人を制した。その中でもカギを握る選手はインサイドの**富田一成**（2年）。全国選抜大会県予選準決勝の沼津中央戦ではサンブーとマッチアップ。12cmの身長差による mismatch 気味のディフェンスながらもサンブーへのパスコースをふさぎ、敗れはしたものの高さには勝る留学生センター対策のお手本のようなプレーを見せてくれた。オフェンス面でもアウトサイドシュートの成功率が高く、**石井竜馬**（2年）や全中出場経験のある**照井龍次**（2年）、サンブー同様県内最高身長・2年の中国人留学生・**張新鋒**（1年）とともに総合的な高さで優るバスケットで勝負する。

東部覇者でディフェンディングチャンピオンの**飛龍**は地区予選から苦しい戦いを強いら

れてきた。エースでセンターを守る中国人留学生・馮俊凱（2年）を故障で欠く中、新主将の山本留佳（2年）を中心にゴール下を必至に守り、東部決勝では伊豆中央の猛追を振り切った。その中でもガードとしては大柄な178cm・松下裕汰（1年）は全国選抜大会県予選決勝でもシックスマンとして起用され、この地区大会でも持ち味を十分に発揮した。2番ポジションの伊東潤司（1年）、廣岡耕平（2年）など実績のある選手の経験値を武器に大会連覇に照準を合わせる。

この4強に挑むのが各地区準優勝チーム。浜松開誠館は創部4年目を迎え、県大会では常にベスト8以上に名を連ねるチームとなった。ダブルエースの二村響（2年）、神田諒成（2年）を軸に東海新人出場、そして県制覇を狙う。伊豆中央は戦力充実期。静岡全中出場経験のある井村大我（2年）、鈴木敏哉（2年）、遠藤一真（2年）などを中心に東部決勝では飛龍と5点差のゲーム、王者を土俵際まで追い詰めた。公立高校で練習時間等も限られた中で10年ぶりの東海新人出場を狙う。中部新人準優勝の城南静岡は昨年に続き2度目の県新人出場で第7シードに入った。フレッシュな旋風を巻き起こすことが出来るか期待である。

その他、新居（西部3位）、島田工業（中部4位）、三島北（東部3位）など新興勢力が上位シードに食い込んで来ているのも今大会の特色である。

【女子】

女子は大会連覇中の常葉学園の安定感が抜群である。主力の3年生・篠宮、見崎、河合、柴などが抜けても下級生の層は厚く、優位は揺るぎない。昨年の和歌山国体メンバーで、特に中距離のシュート力に秀でる高橋夏瑠（2年）やガード陣の伊東かおる（2年）、伊東ひかる（2年）に加え河合に代わる大型センター174cmの野本陽香（1年）や全国選抜大会県予選決勝でも出場機会を得た山下あい（1年）など戦力も豊富である。今年も絶対王者に死角はないように思われる。

対抗は昨年の京都インターハイ出場チームで、今回も激戦の中部新人を制した駿河総合と、浜松開誠館の西部新人11連覇、そして地区大会22連覇を阻止して西部新人優勝を飾った浜松学院、そして惜しくもその浜松学院に西部新人決勝で敗れ西部2位となった浜松開誠館の3校が横一線で並ぶ。

駿河総合は司令塔・浜辺と大型ツインセンターの大串・池ヶ谷が抜けた穴を新たな司令塔・西村茉優（2年）や県内女子選手最高身長178cmの加藤陽（2年）、そして長嶋アンソニー真弥（1年）らで埋めるが、中部新人では優勝したものの準々決勝4点差、準決勝3点差、決勝はわずか1点差と薄氷を踏む戦いが続いた。経験も実績も十分あるチームなので、中部新人での課題を修正して県新人までにチームを仕上げて来るだろう。

浜松学院は昨年この大会で強豪チームを次々と破り準決勝進出。惜しくも初の東海新人出場を逃し4位に終わった雪辱を期し、堂々西部1位で今大会に臨む。司令塔・加藤百夏(2年)が絶妙なボールハンドリングからのパスワークでボールをつなぎ、中盤の添田南葉(2年)、そして長身センター陣173cm添田涼葉(1年)、174cm新村菜亜子(1年)、175cm古野実希(2年)が得点源となる。短い時間で大量得点を取れる爆発的な破壊力を誇るチームだけに、今年こそ東海新人出場、そして平成元年度の西遠女子学園以来26年ぶりの西部地区女子チームの優勝を目指す。

西部新人決勝で浜松学院に惜敗した浜松開誠館も戦力的には前述の3チームに全くひけをとらない。昨年はこの大会の決勝で王者・常葉学園を残り5分までのリードをしていたが、あと一歩で初の県制覇を逃した。また全国選抜大会県予選でも決勝で常葉学園と対戦し、敗れはしたが終盤に怒濤の追い上げを見せた。昨年からの主力である司令塔・陽本麻優(2年)は和歌山国体での貴重な経験を生かし、勝負所でシュートを確実に決めるチームの得点源である。陽本を助ける攻守のポイントゲッターは石田悠月(1年)。華麗なドライブや3Pシュートなどを持ち味に高い得点能力を誇る。中盤の栗田真生(2年)や奈須希咲(1年)は試合経験こそ浅いが実戦向きで試合ごとに成長の跡を見せている。インサイドを任されている173cm・樋口栞帆(2年)は陽本と共に昨年からの主力でスピードあふれるセンターとしてコートを駆け巡る。チームの信条である「粘り強いディフェンス」で東海新人出場はもちろん、一気に初優勝を狙う。

東部新人を制した市立沼津はチームを牽引する主将・小野愛加里(2年)とシューター・武藤誉敬(2年)の出来がカギを握る。2人とも中学時に都道府県対抗ジュニアにも出場経験あり、大試合の場数も多く踏んでいる。まずは3年ぶりの県新人4強を確実にしたい。そのためには準々決勝で対戦が予想される東海大静岡翔洋との試合が正念場となるだろう。また、不利な体勢からも確実にシュートを決めていくエース・濱本希代加、センター・西村紗那を擁する東海大静岡翔洋も中部新人決勝で駿河総合相手に1点差で初優勝を逃したが、雪辱を期して今大会に臨む。その他、エース・山藤歩が得点源となる藤枝順心、チーム一丸のバスケットで西部新人3位を勝ち取った浜松市立、東部新人準優勝の沼津中央なども虎視眈々と東海新人出場を狙っている。